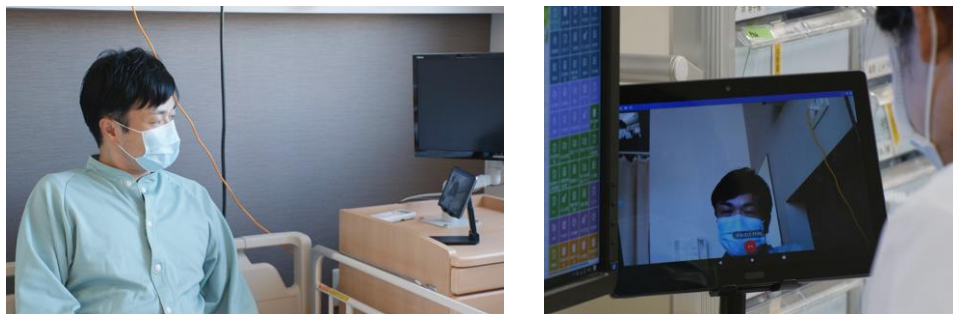


スマートフォンやタブレットを活用した“非接触”コミュニケーションにより、
感染症病床の患者との遠隔応対を実現。防護服の着用が必要な見回り回数の低減に貢献

日光市民病院および月夜野病院に 「遠隔応対ソリューション」を納入



月夜野病院 感染症病床における利用シーン（左：病室、右：スタッフステーション）

シャープは、医療機関や福祉施設向けの「遠隔応対ソリューション」を、栃木県の公益社団法人地域医療振興協会 日光市民病院（以下、日光市民病院）および群馬県の医療法人パテラ会 月夜野病院（以下、月夜野病院）に納入しました。

本ソリューションは、病室のベッド脇とナースステーションなどのスタッフルームにスマートフォンやタブレットを設置することで、ビデオ通話機能による“非接触”での双方向のコミュニケーションを実現します。今般、両病院の感染症病床に、本ソリューションが採用されました。映像や音声により、患者の顔色や体調の確認^{※1}などを遠隔で行うことで、防護服の着用が必要な病室の見回り回数を減らし、業務の効率化や感染リスクの低減に貢献します。

日光市民病院では、本年7月30日から10月末まで、スマートフォン2台、タブレット6台を使用して実証試験を実施。医療従事者の業務効率の向上や患者との対面時間の削減に効果があるとして、このたび本格的に導入することとなりました。

月夜野病院では、同病院が導入する電子カルテシステムアプリ「i-MEDIC Plus」^{※2}と本ソリューションが連動。タブレットで電子カルテを確認できるほか、電子カルテにあるアイコンからタッチで患者とのビデオ通話を開始することができます。接続の手間を軽減し、患者とのスムーズなコミュニケーションに貢献します。

設置場所	納入内容	運用開始時期
公益社団法人 地域医療振興協会 日光市民病院 (栃木県日光市清滝安良沢町)	「遠隔応対」ライセンス 8アカウント スマートフォン「AQUOS sense3」<SH-M12> 2台 法人向けタブレット<SH-T01> 6台	2020年 11月上旬
医療法人パテラ会 月夜野病院 (群馬県利根郡みなかみ町)	「遠隔応対」ライセンス 5アカウント 法人向けタブレット<SH-T01> 5台	2020年 11月上旬

※1 診断行為には使用していません。

※2 医療・介護ICTシステム開発などを手掛ける株式会社レゾナが、自社のパソコン用ソフトウェア「i-MEDIC Plus」を、Android™アプリとして新たに開発したものです。

● 「i-MEDIC Plus」は株式会社レゾナの登録商標です。

本ソリューションに関する情報は、以下のウェブサイトでもご覧いただけます。
http://k-tai.sharp.co.jp/business/remote_response_solution/

【 ホームページ 】 <https://corporate.jp.sharp/>

【 本 社 】 〒590-8522 大阪府堺市堺区匠町1番地

【 お客様お問い合わせ先 】 お客様ご相談窓口 biz-tablet@sharp.co.jp